

分倍河原駅周辺地区まちづくり提案書

頁1/2

府中市 都市整備部 計画課 拠点整備担当者様

* 府中市再開発ルシーニョの駐輪場について

私は75歳です、74歳頃から難病(CIDP)を発症し、免疫性神経炎で脳の命令が神経の損傷で筋肉に伝わらなくなり歩けなくなります、下肢不自由で自宅から府中駅まで(1.7km)自力歩行で約1時間掛かります

帰りは疲れてしまうので1駅ですが府中駅から分倍河原駅まで京王線に乗って帰ります

自転車は以前は乗れたのですが左足が特に悪く、バランスをくずすとペダルと足がクツツイた状態で

自転車ごと倒れて、大怪我をしてしまう寸前でしたので止めました

それで電動補助の3輪車を試乗したのですが乗降時に不安定となり転倒の危険があり駄目でした

更に4輪電動補助自転車に試乗させてもらい、ハンドルに掴まり、跨がりサドルに腰掛けても安定して乗れ

かなり急な坂道や歩道縁石の5センチ程度の段差なら横断することが可能なので、リハビリを兼ねて購入を決意した

それと並行して府中市周辺の近場の駐輪場に留まれる所を探した所、4輪車はゲート式のフォーリス駐輪場とくる駐輪場の

2箇所でした、ルシーニョの駐輪場はラック方式のため2輪車しか駐輪出来ない事が分かりました、地下の駐輪場を

調べた所、4輪車でも4~5台は置けるスペースを発見しました、又2輪車も4~50台置ける空きスペースがあることが

分かりました、建物自体は昇降機、廊下、休憩施設もあり魅力的でしたが、駐輪場に関して障害者を排除する施設になってしまった事は

残念です、当初の目的は駅前の不法駐輪をなくすためにケヤキ並木にチョコリン駐輪場を臨時設置したものが、

施設が完成した段階で撤去となり、不法駐輪はなくなりましたが結果的に障害者を排除する施設となってしまったことです

健康者による健康者の施設となってしまったのは、障害者の団体とか専門の視点で見られなかったからではないか

それでも電動補助4輪自転車を購入して良かったと思っています、多摩川土手のサイクリング道で国立広場まで行った事、

東郷寺のシダレ桜を見て来ました、突に見事でした

ここからは私見ですが普通自転車の法律上の定義はペダルを漕いで自力走行できる3輪以下の物で歩道通行可能な者は

子供や障害者が70歳以上の高齢者となっている、4輪車は軽車両の分類となり歩道は通行禁止です、健康者により物理的形狀で

規制をかけるのは、高齢者の健康指向時代にそぐわないと思います、人は皆移動の自由が保証されているはずですが

私は2012年(69歳)~2015年(72歳)にかけて足掛け4年間で、延べ日数102日間、四国遍路と熊野古道を歩き回ってきました

距離的には四国遍路は約1500km、熊野古道は320kmです

歩くのが大好き人間で時代小説の愛読者です、どちらかと言うと歴史的観光地や山歩きが主体となってしまいました

体力気力がある内に行って来ましたが家族のもとに無事戻れたことに神に感謝しました、人間って、自分の足で自分の意思でどこでも

行けるだ、凄いなと思いました

話は少しそれますが、商業施設のミナノや三小の前の道路は鎌倉街道と呼ばれているが最近気がついたが道路の両側、端っこに自転車の

マークが表示がされているのを発見した

、自転車はその通行帯を走れという事だとおもうが、警官が安全な歩道を自転車で走っているのを目撃するに付け、

もし、ピッコの私が車道の危険な自転車通行帯を4輪車でノコノコ走るのを、江戸時代の岡田忠相が見ていたらどう思うか、興味深いです、

* 緑道で寝台型の車椅子に乗った高齢者を介護人が引いているのを目撃するにつけ、それでも自分はまだ自力で動ける事に感謝したい、
身体は弱ったが介護なしで自由に動ける事が素晴らしいと実感しています

兄は88歳で有料老人ホームのサニーライフ東京に住んでいるが腎臓を悪くして現在は尿道に管を挿して尿袋をぶら下げて生活しています
医者の見守りが必要ですがまだ自力歩行可能で日常生活はまだ出来るようです

今まで自転車に乗って自由気ままに生活してきたが、

この施設からは一人では一歩も外に出して貰えない状況です、まるで牢屋に入れられているようだとこぼしています、コンビニでちょこっとした
買い物とか散歩をしたいと常々言っていました、そこで施設と”外出時の事故は自己責任で施設には迷惑を掛けません”と

覚書きを交じわしたのですが 一人では外に出して貰えませんでした、私は兄の身元引受人となっていますが

月に1~2回、府中から葛飾区新小岩に出かけて、一緒に散歩に出かけたが、私の足が悪くなってから1年近く行っていません、

その間の通信は手紙となります、施設内に公衆電話はありますが10円玉を入れる方式なので実用的ではありません

どの施設でも似たり寄ったりと思うが、最近ではヘルパーは外国人が多くなったとの由、ちょっとでも具合が悪くなると、車椅子に乗せて

しまうそうです、そのほうが管理しやすいからです、兄に施設内では出来る限り、自分の足で歩くように言っております

一方、わがまち、府中では私にとって、宝物が沢山あります、大國魂神社、暗闇祭り、郷土の森、多摩川土手サイクリング道、近くでは片町文化センタ、

いきいきプラザ、商業施設ミナノ等、自宅からそれらに有機的につながった緑道があります、

足が悪くなって気が付きましたが、街なかで私みたいなビッコの人間を相当見かけたことです、4輪車に乗って一ヶ月になるが、初めて見る人が

多いみたいで、やっと歩いている人にとって興味深く感じるらしく積極的に話かけてきます

* 健康特区案

上記府中市の歴史遺産や既存の諸施設を有機的に接続している緑道に、特に老人施設や障害者の人が自由に歩ける回廊を整備したい、其のために

トイレ、ベンチ等の休憩施設の増設、公衆電話、個人にGPS携帯を保持してもらい、すぐ対応出来る事、監視カメラ等で、安全対策を立て、

健全者と協力関係を維持、共有出来ないものか、施設等の閉鎖空間からの開放はどれだけ人を和ませるか、想像しただけで楽しくなります

障害者でも自力歩行可能な人、介護付の人で外に出たいと意思のある人は自宅に閉じこもらないで、まずは近所の散歩でもいかがでしょうか

健全者や障害者にかかわらず身体を動かせば、少なくとも健康維持につながると思うのですが、

* まとめ

これからも何十年と長く使われる施設なので、制度設計は障害者を排除しない、健全者と共生出来る施設となるよう切に望みます

今回、分倍河原駅周辺と限定された話なのに、枠を超えた話になり申し訳ありません